

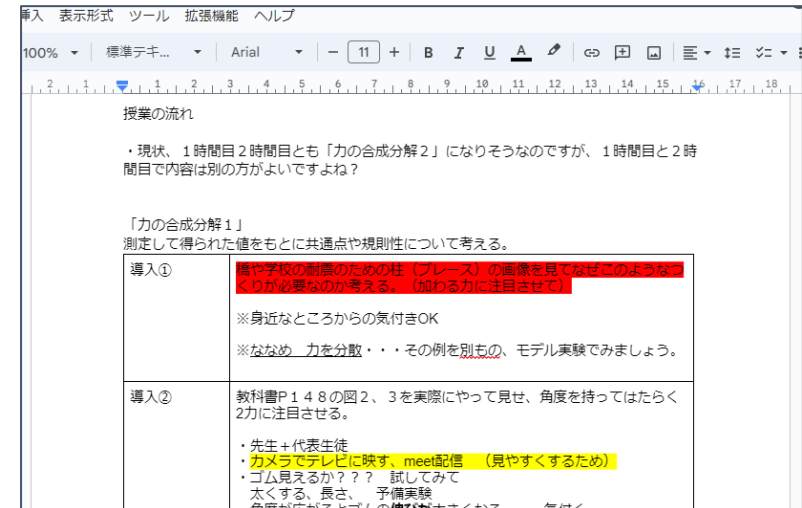
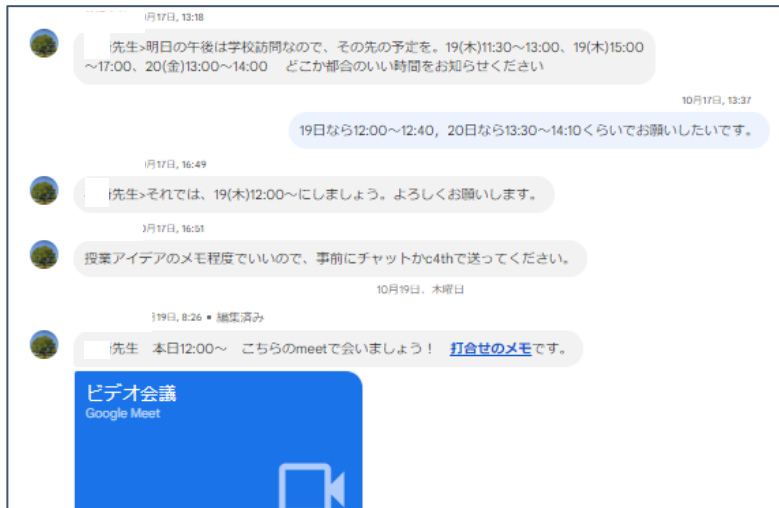
【取組内容①】 「クラウドを活用した教育委員会との連携」

【概要】

個別最適な学びや協働的な学び、情報活用能力の育成に向けた授業づくりについて、GoogleChatやドキュメントの共有機能、Meetを組み合わせて教育委員会の指導主事と相談しながら実践した。

チャットを使って、日々の授業づくりについて相談を行った。詳細を詰める際には、チャット内で日程の調整を行い、Meetとドキュメントの共有を併用してより綿密な相談を行った。

授業の流れや手立て、使用するツールなどについてドキュメントに書き出したものを共有し、Meetで会話しながら、直接入力。



より詳しく、迅速に授業づくりについて相談できて充実した実践につながる。

チャットやMeetを使用することで、本来であれば資料のやり取りや行き来する時間も含め、時間がかかったり、日程の調整が難かかったりする場面で、適時より細やかな相談を行うことができた。共有したドキュメント内に授業の流れが出来上がっているのもそのまま実践に活用できた。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

仙台市立錦ヶ丘中学校（仙台市）

【取組内容①】 「クラウドを活用した活動の振り返り」

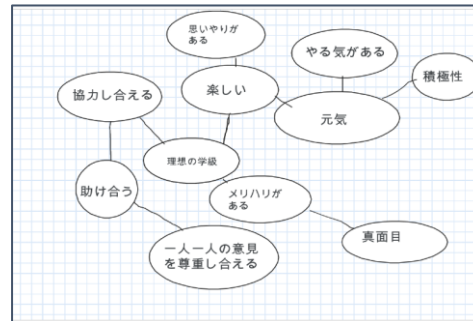
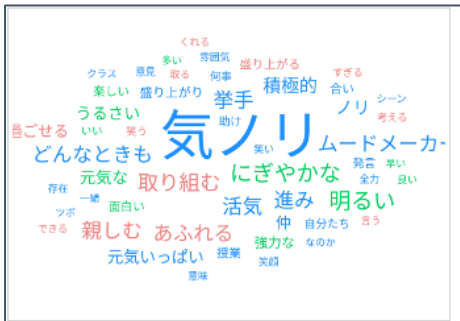
【概要】

生徒一人一人の考えや意見、感想等を、Jamboard・Googleフォーム・テキストマイニング等を用いて可視化、分析するとともに意見を共有し、改善点を明らかにして目標の設定に生かす。

実践例：2年学活「より良いクラスにするためには？」



一人一人がGoogleFormsに入力した「クラスの良い点や課題点」をスプレッドシートに出力し、テキストデータを作成



「より良いクラスにするためには、具体的にどこをどのように改善し、実践していけばよいのか」について、これまでの分析結果をもとにジャムボードを活用して意見を共有しながら班で話し合い、他者の意見を参考にしながら自身の目標を設定

テキストデータをテキストマイニングで分析

可視化された分析結果をもとに、班ごとに、「理想の学級」のキーワードを出し合い、グループ化

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

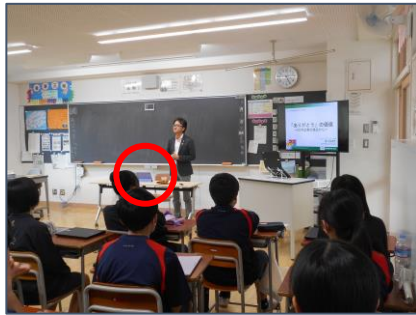
仙台市立錦ヶ丘中学校（仙台市）

【取組内容②】 「クラウドを活用した分散型学年授業」

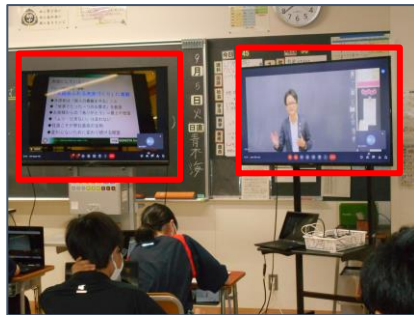
【概要】

大規模校では、学年（全校）児童生徒が集まれる場所は限られる。そこでMeetを活用し、生徒が自席で集中して講話を聞くことのできる環境を構築。様々な場面で実践している。

実践例①「職業講話（仙台自分づくり教育）」

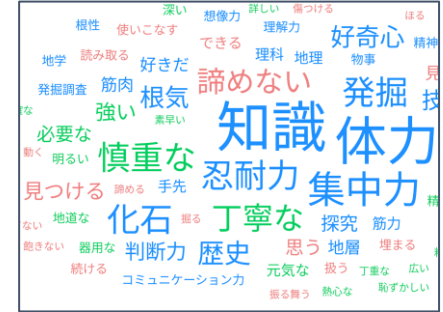
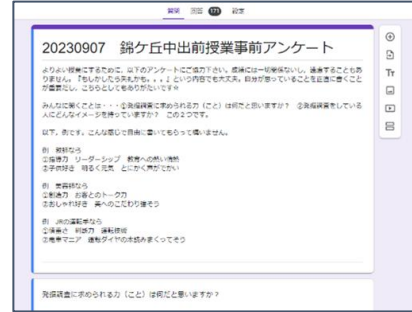


（講師がいる）メイン学級では、2台の端末を準備し、それぞれ会議室（Google Meet）を立ち上げ、講師と資料を別々に配信する。



（講師のいない）サブ学級では、2台のMeet用のモニタを準備し、端末を接続して、講師と資料をそれぞれの映す。資料を映したmeetには生徒も接続できるように設定し、手元でも資料を見ることができるようにする。

実践例②「出前授業（生涯学習部文化財課）」



事前のアンケートで収集したテキストデータをテキストマイニングで分析した結果を示し、他のクラスの生徒の考えに触れる。



メイン学級から配信するだけではなく、サブ学級と双方向でやり取りをし、意見の発表や質疑など、全クラスで、意見交換や考えの共有ができた。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

仙台市立錦ヶ丘中学校（仙台市）

【取組内容③】 「クラウドを活用した各種実行委員会の活動」

【概要】

各行事の実行委員ごとにクラスルームを設定し、機能を活用することで、より充実した効率的な組織運営ができるように工夫した。

実践例① 文化祭実行委員



資料の共有、日程の調整、簡易的な相談などにクラスルームを活用した。また、調整した日程で夏季休業中も学校に集合せず打ち合わせや動画の共同編集を行った。

実践例② 修学旅行実行委員



クラスルームで資料の共有。ドキュメントでしおりやおたより、ルールづくりを共同編集で作成した。

充実した効率的な組織運営

実行委員会の運営にクラスルームを活用することで、情報の共有をより簡単に行えるようになり、集まる回数が減少し、内容の充実した制作物の作成につながった。

【取組内容④】 「フォームによる学校行事の振り返りと評価」

【概要】 学校行事の振り返りを効率よく行うためにフォームを活用している。フォームを活用することで、アンケート結果をその場で生徒に提示することができる。集計が容易なため、年度末の学校評価にも活用できる。

【教員用】桜花祭2023事後アンケートフォーム

ts005079@g.sendai-c.ed.jp アカウントを切り替える

共有なし

* 必須の質問です

プロジェクトチームの以外の先生方

桜花祭2023の「ねらい①」の達成度についてどのようにお考えですか。*

桜花祭2023のねらい①：桜花祭の実施に向けた自発的、自主的な活動を通して、生徒の自律心や自己有用感を育む。

1	2	3	4
○	○	○	○

不十分だった 十分達成していた

桜花祭2023の「ねらい②」の達成度についてどのようにお考えですか。*

桜花祭2023のねらい②：全校生徒の集団への所属感や連帯感を深める。

1	2	3	4
○	○	○	○

不十分だった 十分達成していた

「ねらいに迫るための手立て①」の有効性についてどのようにお考えですか。

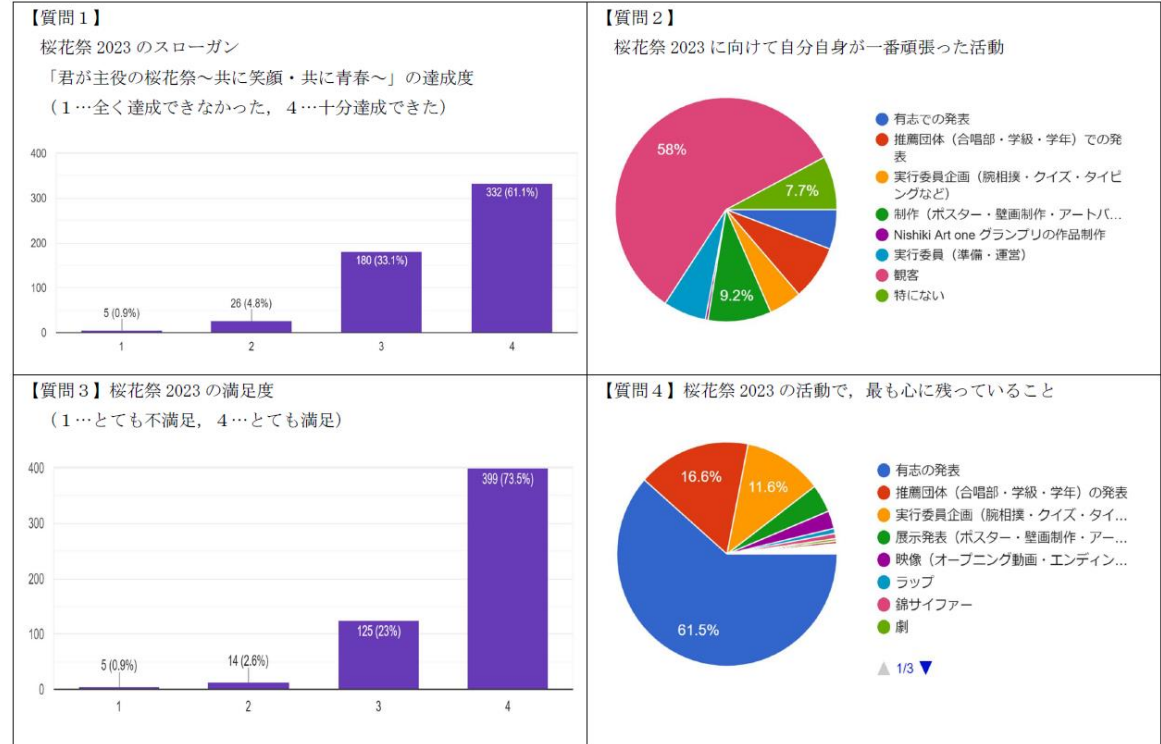
手立て①：生徒会執行部を中心とした実行委員会を発足し、「誰一人残さず、錦中生全員が楽しめる桜花祭」を目標に掲げ、生徒一人一人が主体的に参加できるような工夫をする。

※分からない場合には、無回答で結構です。

1	2	3	4
○	○	○	○

桜花祭事後アンケートまとめ【生徒用】

対象：全校生徒，回答日：令和5年9月1日，回答数：543名



学校行事の後、生徒・教職員にフォームでアンケートを実施する。生徒のアンケートは朝の会や朝学習の時間を用いて実施できる。

アンケート結果は即時集計されるので、授業にそのまま用いたり、保護者向け、コミュニティスクール・PTA向け、教職員向け、など用途に合わせて編集する。特に教員向け資料は年度末の学校評価で活用し、次年度の行事の在り方について議論する資料となる。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

仙台市立錦ヶ丘中学校（仙台市）

【取組内容⑤】 「1人1台端末を活用した校則見直しプロジェクト」

【概要】「社会へ参画する態度」や「物事を多角的に理解し、適切に判断する力」の育成を目指し、現行の校則について、クラウド環境と端末を活用して「生徒」「保護者」「教員」「地域」がそれぞれの立場で意見を述べ、議論を重ねた。

① Formsで校則についての意見を収集し結果を共有する。

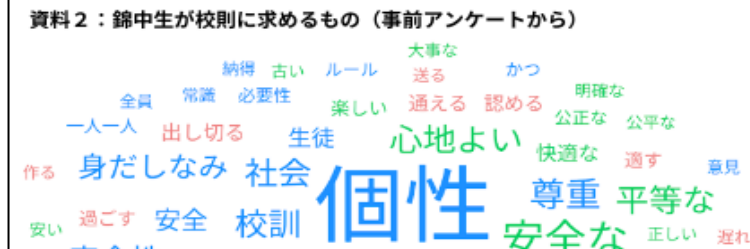
資料1：校則が必要（不要）な理由（事前アンケートから）

	主な意見	キーワード
必要 (93.8%)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒全員が安全に学校生活を送るためには何かしらのルールが必要だと思うから。 多くの人が快適に過ごせるようにするため。 校則がなかったら誰かが嫌な思いをしたり秩序のない学校になってしまうから校則は必要。 校則がないと大人になったときに常識が分からなかったりマナーを守ることができなくなるかもしれないから。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全 快適 秩序 常識 マナー
不要 (6.2%)	<ul style="list-style-type: none"> この校則がなければ学校に来る人だっていると思うし、校則が厳しければ学校生活も楽しくないと思うからです。 自分の個性を縛られることなく自由に発揮したいから。 	<ul style="list-style-type: none"> 個性 自由

③ ②と同時にそれぞれの立場の代表が話し合いを実施し、その結果とクラウドで収集した意見をまとめて、共有する。

①靴下について	どちらかといえばそう思う	自分は統一感や清潔感を演出する手段としてそのままのままでいいと感じている。しかし、本時での他の人の意見を聞いて暗い色や長さに縛られたくない人がいるのも事実であると思った。そのため学校生活に支障が出ない程度であればマークが入っていたり、明るい色であったりするものに変更してもいいのではないかと思います。
①靴下について	どちらかといえばそう思う	正式な場だけ原則として靴下は黒や紺を着用する。
①靴下について	どちらかといえばそう思う	今の校則の靴下は、紺や黒で、制服にあってとてもいいと思うけど、錦中は、個性を認め合える学校だと思うので個性を認め合う日の錦オールは、色も長さもいろんなのでいいと思います。
①靴下について	そう思わない	
①靴下について	そう思う	多様性を重視しても構わなくなっていると思ったので、靴下の校則は利便性がなく個性があまり表現されないのが必要ないと思います。校則では靴下は最低限授業や他人に危害がないものにするとういので良いと思います。

④ 修正案を作成し共有後、最終投票をFormsで実施し次年度に向けての計画を策定する。



提案
「R5年度最終案」を新年度の4月から試行期間として運用する。その後の振り返りについては生徒総会を活用し、必要に応じて修正を図る。

理由
最終案の文面だけを見て、見直しの是非を判断することが多くの生徒にとっては難しいと考えた。また、実際に見直し後の校則（最終案）で一定期間生活することで、より当事者意識を持って、ルールについて考えることができるため。

次年度のスケジュール

時期	R6.3	4月	5月	5/28	6月
今後の動き	<ul style="list-style-type: none"> 最終案の提示（1・2年生） 保護者への説明 	 試行期間		【生徒総会】 ①R5年度最終案について ②R6年度の検討事項について	 新年度のプロジェクト始動

